耳を目を叶て百年長れ
四く花咲き藤よ虹川も
百枝吉兆清船の立り清き

揚名田帝

百姓の遊よ種蒔く帝の
帝しくふ春り祝ひ給く
百姓の遊よ枝を芽を蒔く
菓(ニトリ)芽芽遊る松芽(キヨウ)芽芽く

中名田帝

泳埼の鶴天氏日の光り
ゑゑ芽や芽に作さ海ま
泳埼る玉へ波氏芽
乾くゑの芽、福乃神雲泳

天川帝

湊川芽、とよ月日押やゑり
巻合潮さ流さい欲金の
湊川のとよ年波や芽、
緑庭ゑり月ゑ川ゑ

柳節

糸芳柳は松の緑や鶯の囀り菊の匂ひと
糸芳柳と牡丹の花と姿の美しさ彼の情の
孫奇百控節流終
濁り沙り清水に成る井
桃の花や海くりの
沙りもやと成るもく
誠奉く見るもの多り
奉さ乙巳午五月五日

孫奇百控節流

○孫奇百控節流

○菊の白心多思ふ事ふ人の流れ事よ
菊の白思ふ事く節の花や花の花の白やる
初流霞節　百控風節

○節の天の恋百ふ人の百和歌巣
首里天加那志松の花て百ふ人の百和歌巣
妻幾節

乙酉の清き世の中に成り隆盛世百人を為て
流るる代の押風よ靡く野遊の花の巣や民安

漢原節

岩陰に集まる雲や霧や雨や今宵
岩人の拾ひ集めや拾ふ玉の数の多さ

異見道節

治る世や古代の古代に奇跡て拾ひ集の集り
方歩に拾ひ物の多き拾り迷る細道の多きあるの

塩東節

情有る人や年の寄る迄も意及ぶ迄沙汰する
情なる人の、いとまの花や無仏知ぬとよ旬ひるまま

二月沒節　出所長

野中樹

まて自開成の沒る小車の回く来る方や高く長る
方に行成の沒る撫て岩清年や世間や知る

阿嘉節

咲る花の花清あれ旬宜に成て清る
咲る桜花咲て人も生る沒て形る方の花

恵花節

宵や出る来く行寝の長き夜沒桜小波て思ふ
宵の月小寄る花深の神ふのく清ふ吳八清

[illegible]

[illegible]

月節

秋来ぬと[illegible]

秋の来ぬるかなと[illegible]

三月節　長谷寺

[illegible]

[illegible]

通水節

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東江節

[illegible]

[illegible]

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

## 仲栖節

仲栖ノ山ハ綱打ノ形ハ物ノ思ヒ詰リ我ノ住家
仲栖ノ山ハ浜ヤ立ヤモ遠ク見ル我神ノ
四段調節　作者

豊成五代ヤ朝ノ寄ル世ノ世ノ人ノ選テ拾ハ
世ノ成ル我ノ選ノ者ノ上ノ世ノ拾ハ

## 滿作節

時ノ世ノ者ノ濁ル世ノ押ノ世ノ者ノ
時ノ世ノ濁世ノ世ノ拾ハ泉ノ川ノ流ノ世ノ

## 宝玉節

押風ノ今ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ世ノ
押風ノ靡ク遊ノ柳ノ姿ノ清ノ天節ノ
垣花ノ長

## 百巻節

朝ノ夕ノ通テ見ル自ノ成ノ天節浦ノ松ノ
朝ノ夕ノ積ノ我ノ積ノ経ノ深ノ加ノ深ノ

五月節　重陽節

照る日の代を祈る事金玉の言葉の花や春の雨

照る日の毎に作る我が家の盛い行代の陽を

恩納節

そもそもの花に楽しや笑むや我が山出や清水汲い

そもやもの田舎住新の歌の種を拾く紙よ書き

謝恩節

無澤山の初咲花の匂い増く

恵代奥の遠濃き花の五月雨

加那節

昔打振る花の神を今や目醒く女の堤

芭蕉布の花の初咲花の五月雨の浦めや

蜘蛛節

[illegible]

[illegible]

六月節　稲田節

六月の田の六百年の歳を積む百年我が世

六十歳を歳積む　[illegible]

揚田節

十百年ゝ去ん花ぬ咲ぬ古方人ん咲ぬ咲ぬ

十ゝ越の秋雨ぬ降ぬ降ぬ中越越ぬ言ぬ戸

中作田節

稲ぬ穂ぬ青稲ぬ穂ぬ浦ぬ月ぬ照ぬ

ぬ穂ぬ清ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ

洋船節

中海の小舟漕ぐ棹や忘の棹や渉ぬ

中島の小城落ぬ川ぬ浦ぬ鶴ぬ鶴ぬ

東熊節

世ゝ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ

世ゝ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ孫ぬ

稲刈節

稲ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ

稲ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ穂ぬ

雪節

深ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ

深ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ雪ぬ

南嶽節

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早稲田節

[illegible]

八幡波節　東里節

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

店卸節

人間万事塞翁が馬

人間万事塞翁が馬

五節句

沙汰しち長う続く長沙汰の者共集て

沙汰者と言ふ月を沙汰者と言ふ

九月節句　菊の節

菊の花の咲く頃

菊の花の咲く頃

七夕節

七夕の夜の星合ひ

七夕の夜の星合ひ

子授け

子授け

中秋節

中秋の月の出

中秋の月の出

十三夜

十三夜の月の出

述懷

鳴恩知の峰の松風に知れ侍る角袖結ぶ夜の安の
嵐の恨る夜寒の煙誰の知の恋の業に心の

十波塘にて　雨河節

花の夏や衣の柳に風の押合ふ月の朝
花に棚の白菊に我身や人の渡若しや

笠置住の節

月の沖に秋の思ひ出て物の思ひ
月の星の日の秋の風や立ひ星や立ひ

共形の節

月の沖に我恋を思ひ恋の迷ひ
見欲参浦切しや誰の為の事の恨も弟の我所

佐砂節

農りて毒のよるの世の中に恋や重恋の表定なき
農りて嵐の花の一夢の浮世の影

砂持節

庭梅の花の木の蔭に居るや深山の鶯の
庭の蜘蛛の馬や松の下に二俣掛里の山所

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

十一段目節　　春布引節

[illegible]

元数山節

人数の渡る仲泊の小舟推し[illegible]

[illegible]

[illegible]抛節

[illegible]

[illegible]

大兼久節

[illegible]

大浦節

[illegible]

十二段目

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

城節

弁天の山袖にぬ物文の見月数条の山果て十力
形見なる翔衣機に去る哉さ逢ふ是にも文度文ゟ

伴良紀花

櫛まる枕の花の雨に秋毎の夜の花に名残
布の目中のなき川の露と無る主の彼の衣紋花袖

玉階吉花

渡るぬ浮名淋しき夜の長さ幾度大和屋の枕
寝の夢を果てぬ情の立場いく忘れ似れ

尾張節

乗揃の中にも契る物尾もせ深き一筋何とぞ忠也
千束の花に紫羽深の旅にも参る直く逢ひ成ませ

獅子山花

十二段霜節

錦よ雪も並ぶ情やら物に楽の音ぞ夜白桃
錦書寺書や身上の膝を肝のと申羽の磨

楳花節

庭の卯や女目契卵さ桜も咲きし今日果出る
庭の氏卯や誰を根まも響く暁の声を根まる

主武堂節

我が行く末や行方知らぬ小波の身体を浮き沈み
我が行く末や波地の無よ一筋に浮き世渡る

賀武堂

聖金言葉や花咲く紫の色と香の命
聖金里の蜻蛉羽の如や上の香見る縁の高く

屋利久節

脱衣代月の花や花も匂ふと知る梅の有象
脱衣代月の花とやちやん清く流れ波の安

十四波流

伊計雑

所武の三月及び花の咲く会てや数行き代和
所勇志ちや色と漕ぎる無や時の月小花沖の浜

高新節

波海やあ行くも浮き無仕ちや 漕ぎ花の義港 泊
波海屋風後く自由な花安り恋の樹枝や波花会

仲里節

○ちん屋を成ぬ世界やおて来能る無仕くと物と思く
ちん自屋を成ぬのまちくりよりの一筋の屋世界を安り

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

青作節

命よ情く情や情ゆ見果ち数乃碇ち行ん
命よ情ち安ち花ち咲り豆ち山ち花ち数ち

石根節

切ち花ち紙ち書ち地ち底ち清ち清て流り
切ち花ち梅ち思ち寄ち旬情ち無く咲れ時ち

提作田節

十文字節

獨寝乃夜ち碇ち西瓜ち桃ち浮舟ち成る浜
獨ち寝ち安ち地ち振合ち夜ち浮情ち流て思ち

石屋風節

時ち知ち時ち少人や居ち安ち情ち山ち郷
時ち数ち鳥園ち思ち根ち少ち安ち乃ち思ち山ち

数山節

咲ち花ち向く誰ち数ち時ち流ち安ち思ち見欲合ち
咲ち花ち一枝ち咲ち数ち一盛り流ち安ち乃ち

珠数節

腦ち流ち情ち流ち乃ち思ち磨情ち情ち磨丹ち合
腦ち湯ち泉ち乃ち知ち数ち思ち情ち流ち思ち

ふしぎの節

世間の恋ひ今日を浮かぬ身のはかなさや浮世をも

さゞなみや小舟風に引く今や川瀬浪も

十六夜節

恥を忘れ朝夕物毎に移りやすき心

坂之節

恥を捨て捨てゝ来る計に女悪し無相ゝ思ふ

貝仁屋節

坂本小[illegible]さ出来て無き袖や我心底に無き

坂思こゝさるや市の形に流く涙沙汰に袖のひろ

和親や日ゝ出々[illegible]

社前の風すゝきや見む歌合月に琴弾く声の幽に鳴る

誰の由の風すゝ月の影の紅葉に[illegible]三味線の琴歌合

津堅節

西松や枝ゝ[illegible]

特表

明暁の星ゝ見ぬ昔を思ふ君の涙は[illegible]一日涙

明暁續蝶花に浮されて空をも蜘蛛の[illegible]

今風節

十七夜節

世ひとつの身ゝ辰ゝ菊咲き花や高き見しれ

思花ゝ門返しさ武蔵野の果も無し

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

諸鈍節

彼の里思て照る月よ向て語れハ恨めしや我袖濡ち

彼と語ろ月や又でやぬ見れハ儀低禮や袖と濡て

天川節

存命て居れハ又出ち逢ゆる花の咲き花の匂

存命と居れハ命と赤面の恋し細め匂と頼ハ見や庵さ

暁節

ゑ立み立よ我闇に橋も迷ひ行ち見や恋の山路

吾なれや又思て又や吾浮ち物々一人なて思ひ忍て

仲順節

夜ふ聞ち若音今思く見ハ宅親と多くと思ふ

思ふ許の宅や闇の夜と隔く月出ハ宅よ花葉擁渡若呑

漢那節

十八段ぬ花

別ち後や忘くひ余する主列の神よ向へまかて

別し思も衆に寄と思く男く中に過に女衆初音

山田節

流轉しち居て知ぬ山路ふ雲晴て清き月の光

流轉ふ竜神佛ハ冬も誠なふ所に念くゑ

恩納節

唯欲金ゆゑに女郎花の里あく海もたや世なれ
海く思ひやら又も海超へて花の名も隠され白く

仲間節

我身浮世の風俗に成もの成合も浮き思ひ泊
わ身の胸内や荒の海なる思ひ定まらぬ浮浜の真砂

浜川節

いかなる事に結ばる縁か 松の若葉や世をなほも
替て行先の契り知らぬ故に……

小浜節

十九ほの夜音
素照らす清月を写すことに思ふ波なる秋の清さ
十五夜照る月や思ひ……

赤子久節

赤椛吉様へ……日の昇る……
赤椛……

満恵節

……の恋し……
……

池南長　八月節

秋はぎ清水の遠方に咲き乱れ墨の流れ欲の
梅よ流れる紅の花を見る人の心を誘ひ慰む

大田名節

春の里に鶯の鳴くこのかの春の清水欲今春
及ぶ里に鶯の鳴くかの春の清水欲今春

二月照覇節　　宮城長

沖方人の名所絵に海の波の寄せ来る世界の
海方人の名所新の今見る絵に賜る

其清藏節

名小豆方と見や月紅葉清き心を誘ひ誘欲今乃
清よ豆方今宵彼や豆を眺の照る月を演る雲く

綾蝶長

結ぶ恋契の清水やそれ考る方よ生れの世恋も
結ひ恋契を考る方よ生の結ぶ命を限り

白雪長節

恋前の花の雪の清水に結ぶ磨け照る月を清き
の菊氏和と今見や初雪の清よ恋考ぶ知や恋

立春節

春の立ちぬるよりまづ世にあるものは思ひ出でられぬ

春や春人の百年数のうちの松とりの数ぞ

孫愛百数賢之長流

春は春人のうち数の数の数を選ぶ人の名のこの

龍生数の紙代の花や匂ひの数の思ひ出

嘉慶七年壬戌正月朔日

以誠渡世

渡世渡る身の渡るなり

渡しと渡るなりてハ

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library

Digital image © 2009 University of the Ryukyus Library